

YAMAHA



ACTIVE SERVO PROCESSING SUPERWOOFER SYSTEM

YST-SW70

取扱説明書

このたびは、ヤマハ アクティブ サーボ プロセッシング スーパーウーファーシステムYST-SW70をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

YST-SW70の性能を十分に発揮させると共に、末永くご愛用いただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

お読みになった後は保証書と共に大切に保管してください。

目次

ご使用上の注意	2
スーパーウーファーの設置	3
各部の名称とはたらき	4
接続のしかた	6
音量バランスの調節	9
組み合わせ例	10
MUSIC/MOVIEモードについて	10
故障かなと思ったら	11
参考仕様	11
ヤマハホットラインサービスネットワーク	12

音楽を楽しむエチケット

これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。



楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には特に気を配りましょう。窓を締めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

ご使用前に必ずお読みください。

特長

YST-SW70は、ヤマハのオーディオ技術を駆使して開発されたアクティブ サーボ テクノロジーシステムを使ったスーパーウーファーシステムです。オーディオシステムの低音域の補強用としてご利用いただけます。

接続方法は、スピーカー入力とピン入力の2系統の入力端子を装備していますので、お手持ちのシステムに簡単に接続でき、YST-SW70の重低音効果を手軽に体感できます。

【アクティブ サーボ テクノロジーとは】

アクティブ サーボ テクノロジー スピーカーシステムは、スピーカーのボイスコイルの電気抵抗を打ち消す働きをするアンプと、ポート内の空気を共鳴させて低音域を再生するエンクロージャ(ヘルムホルツの共鳴箱)との組み合わせによる全く新しいスピーカーシステムです。

ポート内の空気を共鳴させて低い音を出すには、大きな力がいります。そのためにはスピーカーの駆動力や制動力を強くすれば良いわけですが、この駆動力や制動力はボイスコイルの電気抵抗で制限されます。YST-SW70に内蔵されているアンプは、従来のアンプとは異なり、ボイスコイルの抵抗分を打ち消すことができます。したがって、ポート内の空気を十分に共鳴させることができ、良質でパワフルな、低音域の再生が可能となります。

ご使用上の注意



電源コードは大切にお取り扱いください。特にコンセントから外すときは、必ずプラグを持って抜いてください。本機は国内用につくられています。定格電源電圧AC100V、50/60Hzでご使用ください。外国で使用することはできません。(長時間使用しない場合は、安全のために必ず電源コードをコンセントから抜いてください。)



キャビネットの変色・変形を防ぐため、直射日光や湿気の多い所での使用は避けてください。



設置場所は、転倒などの事故が発生しないしっかりと安定した場所を選んでください。



キャビネットを美しく保つため、キャビネットに水気およびアルコール、ベンジシ、シンナー殺虫剤などをかけたりしないようご注意ください。色が剥げたり変色したりします。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。



本機をレコードプレーヤーと同じ台や棚の上に設置すると、ハウリング(音の悪循環)を起こすことがあります。



本機は、防磁設計となっていますが、万一テレビの近くでご使用になり色ムラが生じたときは、テレビと本機の距離を離してご使用ください。



本機を移動する場合は、電源プラグを抜き、全ての接続コードを外してください。



背板を開けて内部に手など入れますと故障や感電事故を起すことがあります。分解や改造など絶対にしないでください。



購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などの記入がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合、有償となることがありますのでご注意ください。



この取扱説明書は、保証書と共に大切に保管してください。

スーパーウーファーの設置

■ フロント側の設置

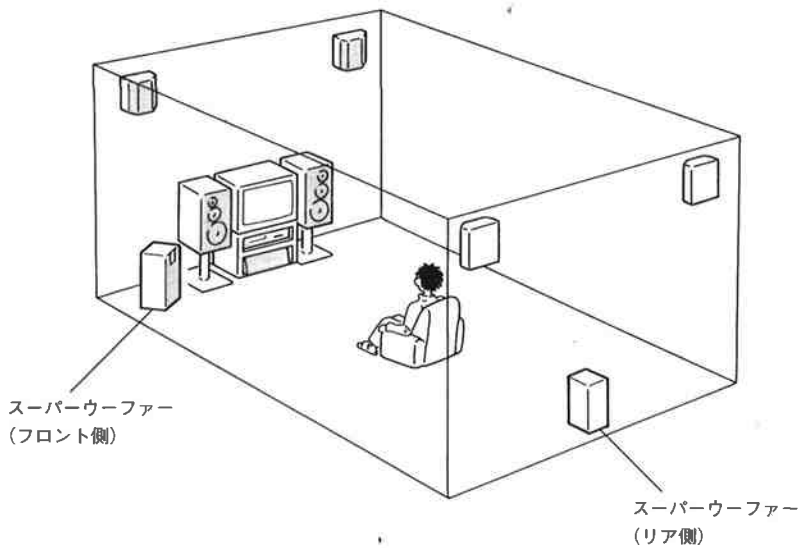
メインスピーカーの左右どちらかの外側に設置して、壁の反射を避けるため、少し内向きにしてください。低音の聴こえ方はスピーカーを置く位置と、聴く位置の両方で影響されますので、可能な限り位置を変えて試聴してみてください。

■ リア側の設置

映画ソースではリアチャンネル側の低音再生も非常に重要です。フロント側の低音とリア側の低音が再現されると迫りだけでなく、音像や音場感が大きく改善します。

映画のサラウンド効果を充分お楽しみいただくために、リア側にも二台目のスーパーウーファーの追加をお勧めします。

設置例



設置上の注意

- 本機は縦／横どちら向きでも設置できます。本体前面および背面を下にして設置はできません。
- 本機はパワーアンプを内蔵していますので、背面からの放熱を妨げないよう、壁から10cm以上離して設置してください。
- 家具や窓ガラスは共振することがあります。共振する場合は、厚手のカーテンなどを使用して吸音するようにしてください。
- 本機の超低音域再生の振動で、周囲に迷惑がかからないように心掛けてください。

参考

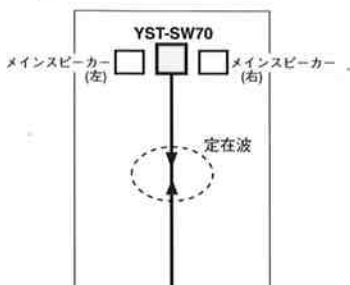
◇ 超低音域は◇

音楽信号の超低音成分は、波長が長いので、人間の耳ではあまり方向感覚がなく、無指向性に近い特性になります。したがって超低音域ではステレオ感も無くなるため、スーパーウーファーは1台でも超低音再生の効果は得られます。しかし、より一層の臨場感を得るためにはメインスピーカーと同じように、L、R 2台設置すれば、すべての帯域でしっかりとステレオ再生されて雄大な音場再生が可能となります。

◇ セッティング時の向きは◇

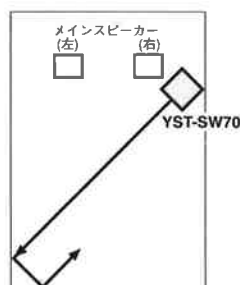
図Aのように正面に向けてセッティングすると、壁で反射した音が、スピーカーから出てきた音とぶつかり、打ち消し合ってしまう聞こえにくいことがあります。これは部屋の中にできる定在波の影響です。

これを避けるために、斜めにセットすると効果的です。(図B、図C)



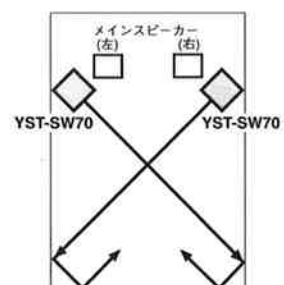
図A

定在波の影響で低音が聞きにくくなる



図B

YST-SW70 1台使用時の設置例

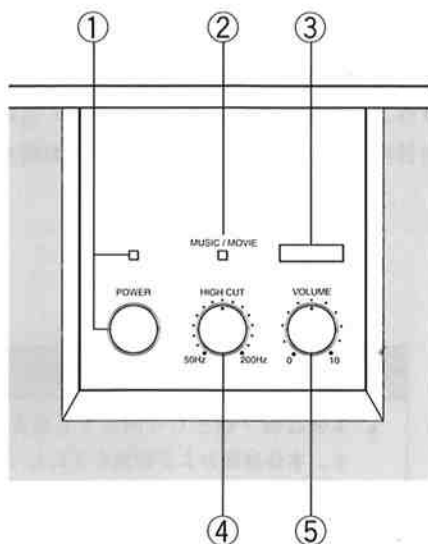


図C

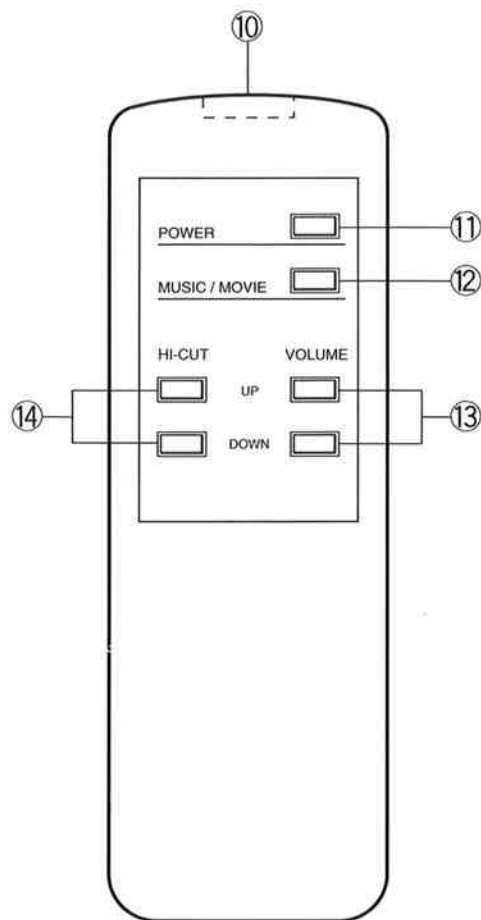
YST-SW70 2台使用時の設置例

各部の名称とはたらき

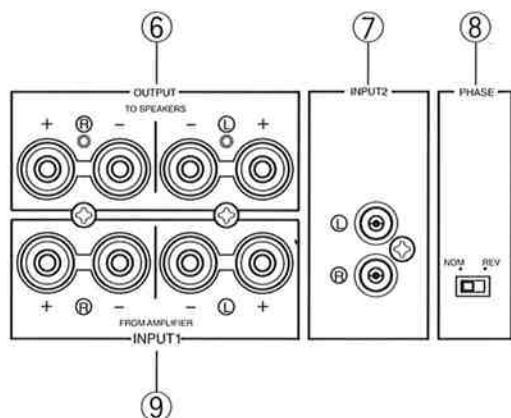
■ 本体前面



■ リモコン



■ 本体背面



①電源スイッチ/インジケータ (POWER)
パワー
 スイッチを押すと、インジケータが点灯し、電源が入ります。スイッチをもう一度押すと、電源が切れます。

②モードインジケータ (MUSIC/MOVIE)
ミュージック ムービー
 低音再生のモード(MUSIC/MOVIE)を表示します。切り替えは、リモコンのMUSIC/MOVIE(12)ボタンで行います。MUSICモードのときは緑色に点灯、MOVIEモードのときは赤色に点灯します。

③リモコン受光窓
 リモコンのコントロール信号(赤外線)を受光する窓です。

④ハイカット周波数つまみ (HIGH CUT)
ハイ カット
 カットする高域の周波数を調節するつまみです。組み合わせるスピーカーや好みに合わせて調節します。

⑤音量つまみ (VOLUME)
ボリューム
 本機の音量を調節するつまみです。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

⑥スピーカー出力端子 (OUTPUT)
アウトプット
 スピーカー入力端子INPUT 1(9)からの信号をそのまま出力します。メインスピーカーを接続する端子です。

⑦ピン入力端子 (INPUT 2)
インプット
 アンプのライン出力(PRE OUT等)からの信号を入力する端子です。

⑧位相スイッチ (PHASE)
フェーズ
 位相を切り替えるスイッチです。通常は、ノーマル(NOM)側にしますが、組み合わせるスピーカーや設置場所によっては、リバース(REV)の方が低音域再生が良好になる場合があります。試聴を繰り返して、最も好ましい低音域再生になる方を選んでください。

⑨スピーカー入力端子 (INPUT 1)
インプット
 アンプのスピーカー出力からの信号を入力する端子です。

⑩送信窓
 リモコンのコントロール信号(赤外線)を送信する窓です。

⑪電源スイッチ(POWER)^{パワー}

押すたびに電源がON/OFFします。
電源が入っているときは、本体前面のPOWERインジケータ(①)が点灯します。

⑫モードボタン(MUSIC/MOVIE)^{ミュージック ムービー}

再生するソースに適した低音再生をするために、本機は音楽用(MUSIC)と映画用(MOVIE)の再生モードがあります。ボタンを押して、モードを選んでください。
MUSICモードのときは緑色に、MOVIEモードのときは赤色にモードインジケータ(②)が点灯します。

⑬音量ボタン(VOLUME)^{ボリューム}

本機の音量を調節するボタンです。
UPを押すと音量が大きくなり、DOWNを押すと音量が小さくなります。
操作中は、本体前面の音量ツマミ(⑤)が連動し、POWERインジケータ(①)が点滅します。

⑭ハイカット周波数ボタン(HI-CUT)^{ハイカット}

カットする高域の周波数を調節するボタンです。
組み合わせるスピーカーや好みに合わせて調節します。
UPを押すとハイカット周波数が高くなり、DOWNを押すとハイカット周波数が低くなります。
操作中は、本体前面のハイカット周波数ツマミ(④)が連動し、POWERインジケータ(①)が点滅します。

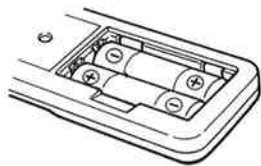
リモコンについて

■ 乾電池の入れかた

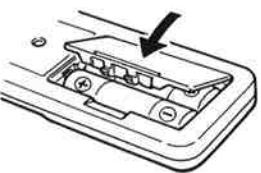
1. 裏蓋を外します。



2. 付属の単3乾電池2本を入れます。
“⊕”“⊖”の向きを、ケース内の表示通りに正しく入れてください。



3. カチッと音がするまで、裏蓋を閉めます。

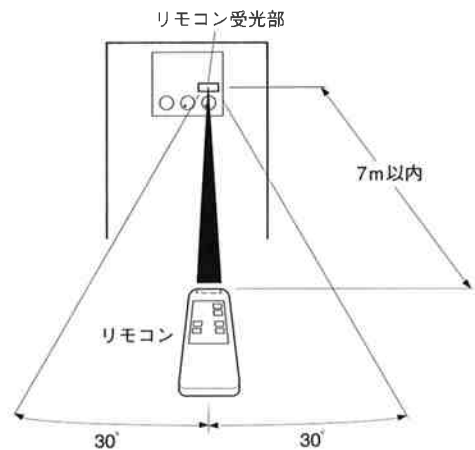


乾電池のご注意

乾電池を誤って使用すると、液漏れや破裂するなど危険がありますので、次の点について特にご注意ください。

- 乾電池のプラス(⊕)とマイナス(⊖)の向きを、電池ケースの表示通りに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも電圧の異なるものがあります。
- 電池には充電式と充電式でないものがあります。電池の注意表示をよく見てご使用ください。
- 乾電池が液漏れを起こしたときは、乾電池ケースや電極についた液をよく拭き取ってから、新しい乾電池を入れてください。
- 長い間リモコンを使用しないときは、乾電池を全部取り出してください。

■ リモコンの使用範囲



■ 乾電池の交換

乾電池が消耗してきますと、リモコンの操作可能距離が極端に短くなったり、ボタンを押しても動作しなくなります。その場合は新しい乾電池(2本同時)と交換してください。

リモコンの取り扱い上の注意

- リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本機の受光部に向けて正しく操作してください。
- 受光部を覆ったり、リモコンと受光部の間に障害物があると操作できないことがあります。
- 受光部に直射日光や強い照明(インバーター蛍光灯・ストロボライトなど)が当たっているとリモコンが動作しにくくなります。照明または本機の向きを変えてください。
- リモコンには衝撃をあたえないでください。また、お茶や水をこぼしたり、ストーブのそばなど温度の高いところには置かないでください。
- 他の機器のリモコンを同時に操作すると、動作しないことがあります。

接続のしかた

接続の前に

本機の接続のしかたには、下記の方法があります。
お手持ちのアンプの機能により、都合のよい接続方法をお選びください。

■アンプのスピーカー出力端子に本機を接続する場合 → スピーカーコードで接続します

接続 1 アンプにスピーカー出力 A + B がある場合7ページ

接続 2 アンプにスピーカー出力が 1 系統、または 2 系統あっても A + B がない場合
.....7ページ

■アンプのライン出力端子プリ アウト モノ アウト サブウーファー(PRE OUT, MONO OUT, SUBWOOFER)に本機を接続する場合

→ ピンコードで接続します

接続 3 アンプにプリアウト端子 1 と 2 がある場合(セパレートアンプ)8ページ

接続 4 アンプにモノアウトまたはサブウーファー端子がある場合8ページ

* 接続 **3**・**4** の場合、アンプ側の出力端子はアンプの音量つまみに連動して出力レベルが可変する端子を使用してください。
REC OUT と接続しますと、そのつどアンプと本機の音量バランス調節が必要となりますので不便です。

接続の際の注意

- 接続の際は、必ず本機および接続する機器の電源を切ってください。
- 接続する機器によって接続方法や端子名称が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
- アンプによっては端子の色が異なる場合があります。その場合は極性(+、-)を確認して接続してください。極性(+、-)を間違えて接続した場合、不自然な再生音になるばかりでなく、故障の原因となりますので注意してください。
- 接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度確かめてください。

参考

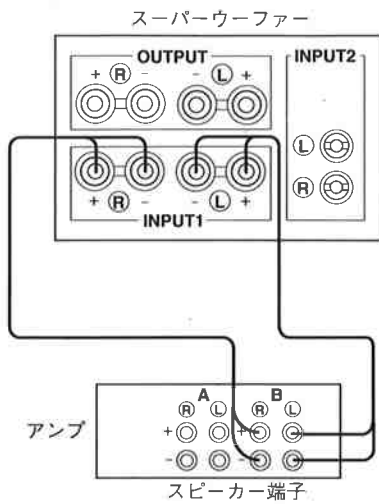
スピーカー／ピンのどちらでも接続できる場合、アンプと本機の距離が 2 m 以内ならピン入力、それ以上の場合はスピーカー入力での接続をお薦めします。

参考

本機の INPUT 1 の入力インピーダンスは非常に高いので、接続 **1**・**2** のように本機をアンプのスピーカー出力端子にメインスピーカーと並列接続しても、何らアンプの特性や動作に悪影響はありません。

接続 1

アンプにスピーカー出力A+Bがある場合

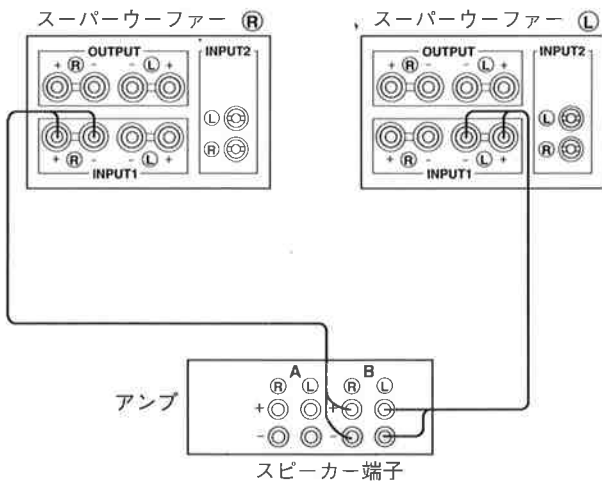


【接続手順】

1. お手持ちのメインスピーカーは、そのままアンプのスピーカー出力端子A(または1)に接続しておきます。
2. アンプのスピーカー出力端子B(または2)と本機のスピーカー入力端子(INPUT1)を付属のスピーカーコードで接続します。

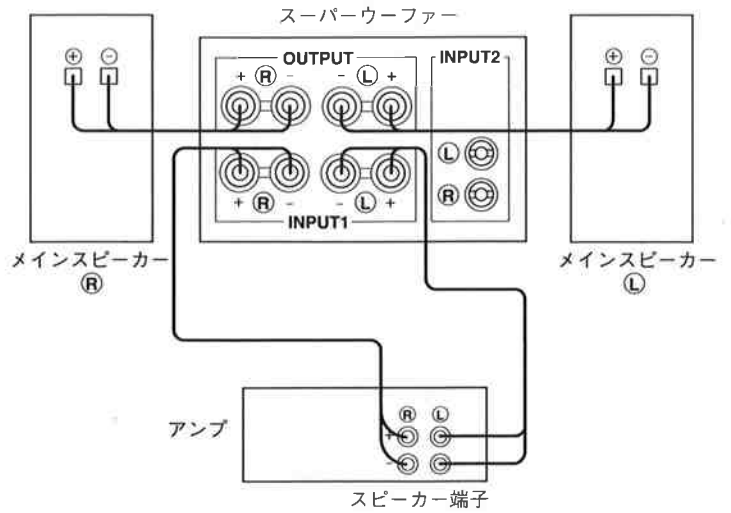
* アンプのスピーカー切替スイッチのAとBをONにしてお使いください。

左右に2台使用する場合



接続 2

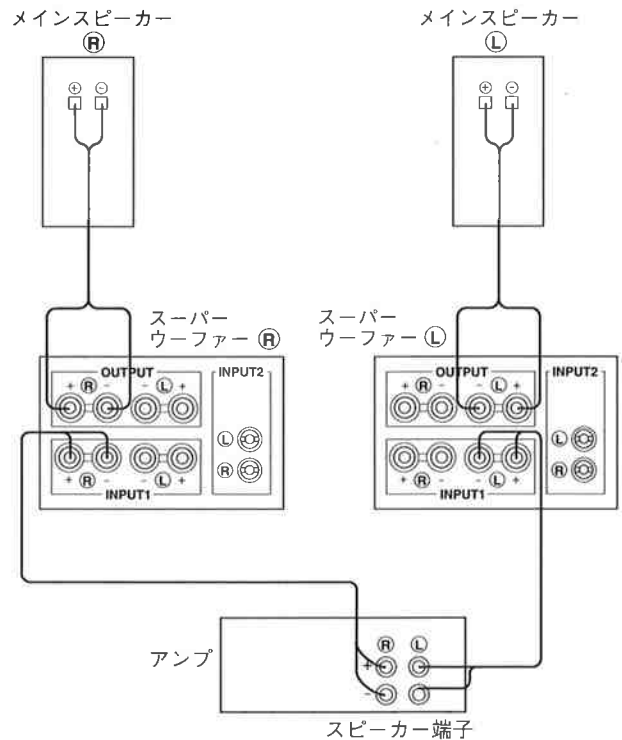
アンプにスピーカー出力が1系統、または2系統あってもA+Bがない場合



【接続手順】

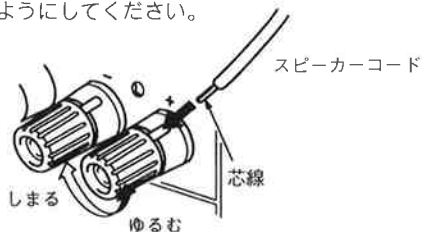
1. お手持ちのメインスピーカーを本機のスピーカー出力端子(OUTPUT)に接続します。
2. アンプのスピーカー出力端子と本機のスピーカー入力端子(INPUT1)を付属のスピーカーコードで接続します。

左右に2台使用する場合

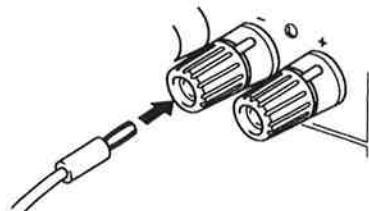


スピーカーコードの接続

◇ スピーカーコードの芯線部分が端子の外に出ないようにしてください。

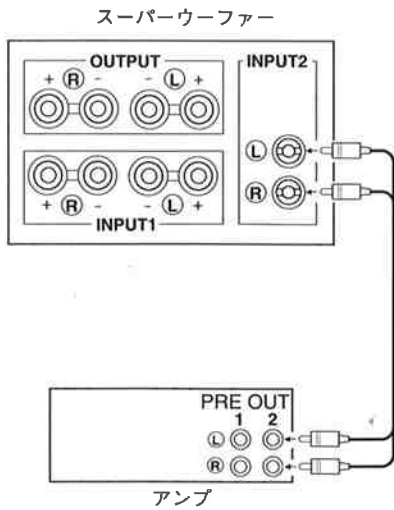


◇ 市販のパナナプラグを使って接続する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。



接続 3

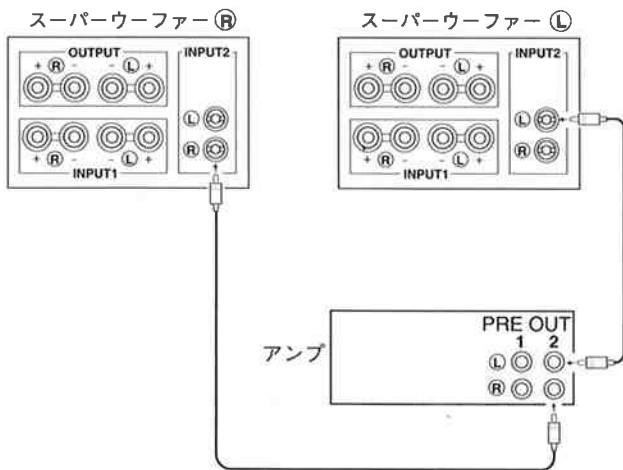
アンプにプリアウト端子1と2がある場合
(セパレートアンプ)



【接続手順】

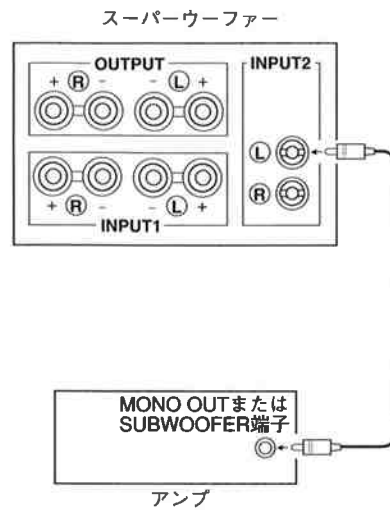
1. アンプのプリアウト端子2と本機のピン入力端子(INPUT 2)を市販のピンコードで接続します。
2. その他の結線は何ら変える必要はありません。

左右に2台使用する場合



接続 4

アンプにモノアウトまたは
サブウーファー端子がある場合



【接続手順】

1. アンプのモノアウトまたはサブウーファー端子と、本機のピン入力端子(INPUT 2)のL(左)またはR(右)のどちらか片方に、市販のピンコードで接続します。
2. その他の結線は何ら変える必要はありません。

■ 電源プラグの接続

電源プラグは、すべての接続の最後に行ってください。

本機の電源プラグを壁のコンセントまたはアンプのAC OUTLETに差し込みます。

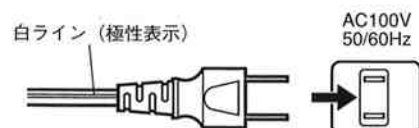
アンプのAC OUTLETに接続される場合は、SWITCHEDに接続すると、アンプの電源スイッチに連動して本機のON/OFFが行えます。

* アンプのAC OUTLETを使用する場合、消費電力に注意してください。本機の消費電力は44Wです。

参考

本機の電源コードには、電源トランスの巻き始めが極性表示(白ライン)されています。

極性を差し替えて音質が変わるようでしたら、お好みの極性でお使いください。

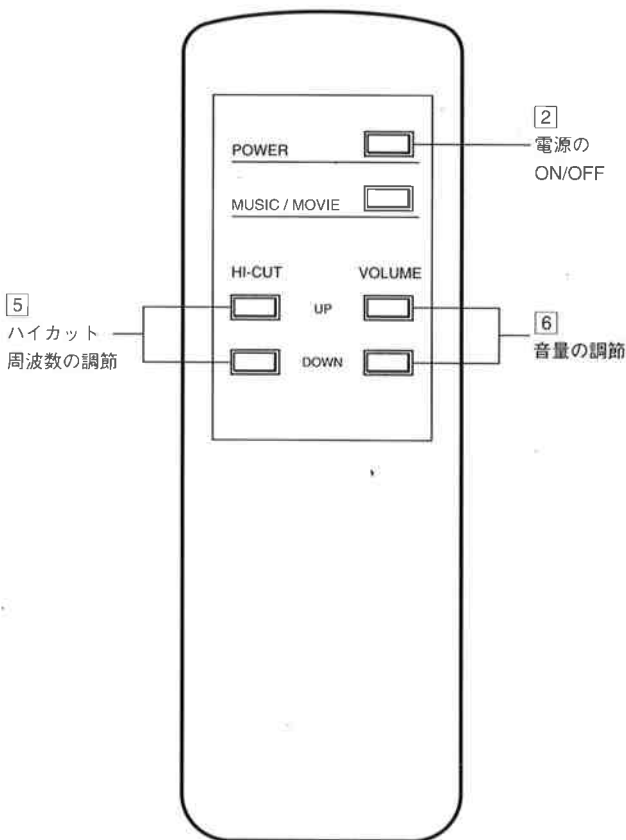


音量バランスの調節

効果的な低音域再生をするためには、組み合わせるスピーカー(メイン)とスーパーウーファーの音が自然につながるように調節する必要があります。接続完了後、調節を行ってください。

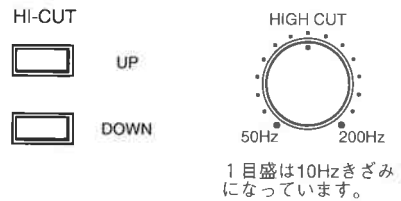
一度バランス調節をした後は、アンプ側の音量調節だけで、全体の音量調節ができます。

調節はリモコンを使用し、リスニングポジションで行ってください。

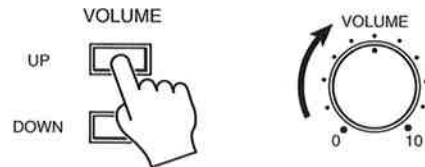


【調節手順】

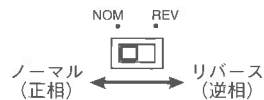
1. アンプの音量を最小にし、アンプおよび各機器の電源を入れます。
- 2 本機のPOWERスイッチを押して、電源を入れます。
3. 低音を含んでいるソースを再生します。
4. メインスピーカーの音量をアンプで調節します。通常お聴きなる音量にします。(トーンコントロールなどは、一旦フラットにしてください。)
- 5 5 ハイカット周波数(HIGH CUT)を調節します。メインスピーカーの最低再生周波数(再生可能な最も低い周波数)のやや低めに合わせてください。
* メインスピーカーの最低再生周波数は、そのスピーカーの取扱説明書で調べてください。



- 6 本機の音量(VOLUME)を徐々に上げていき、メインスピーカーとの音量バランスをとります。スーパーウーファーがないときよりも若干低音が聞こえるくらいにします。



7. お好みにあわせて本機背面の位相(PHASE)スイッチを切り替えます。



ご注意

アンプのトーンコントロール(BASS, TREBLEなど)やイコライザーを最大にして大出力でご使用になったり、市販のテストディスクなどに入っている20Hz~50Hzのサイン波や特殊な音(電子楽器、レコードプレーヤーの針先のショック音、低音が異常に強調された音など)を連続して大出力で加えることは、スピーカーの破損の原因となりますので絶対に行わないでください。

また、低音が異常に強調された特殊なディスクでは、本来の音以外に異音が発生する場合があります。これは、スピーカーユニット自身の限界を越えた“バタ付き”現象で故障ではありません。そのようなときは、音量を下げてご使用ください。

PHASEについて

位相(PHASE)スイッチは、メインスピーカーに対して、正相(NOM)につながるか逆相(REV)につながるか切り替えるスイッチです。

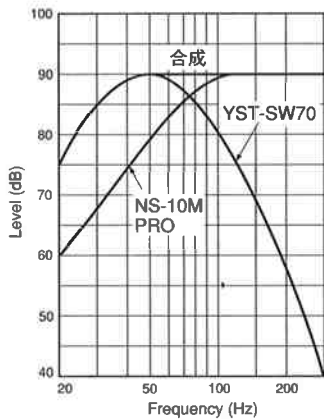
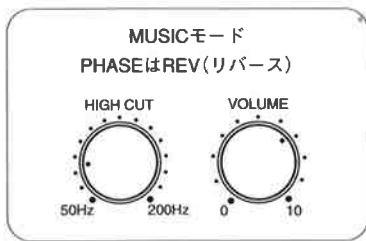
切り替えることによって、音の雰囲気が変わることがあります。あくまでも聴感的ですが、正相でつながるか逆相でつながるかによって、低音ばかりでなく全帯域にわたって音の拡がりや、しまりが変化し音場感に影響を与えます。メインスピーカーの種類(密閉型かバスレフ型)や設置状況によってそれぞれ異なりますので、セッティングの際に、正相/逆相の両方を試聴してみてください。最も好ましい再生音になる方を選んでください。

組み合わせ例

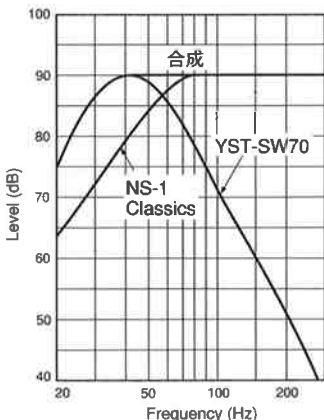
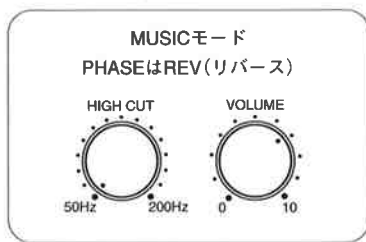
ハイカット周波数、音量、位相(PHASE)調節は、組み合わせるスピーカーや設置状態、リスニングポジション、再生するソース、好みの音量バランスなどの条件によって異なります。

次に示す図は、弊社の代表的なスピーカーシステムと組み合わせた場合の各ツマミの調節位置と、そのときの音圧周波数特性です。図を参考にお手持ちのスピーカーシステムとの調節を行ってください。

● NS-10M PROとの組み合わせ



● NS-1 Classicsとの組み合わせ



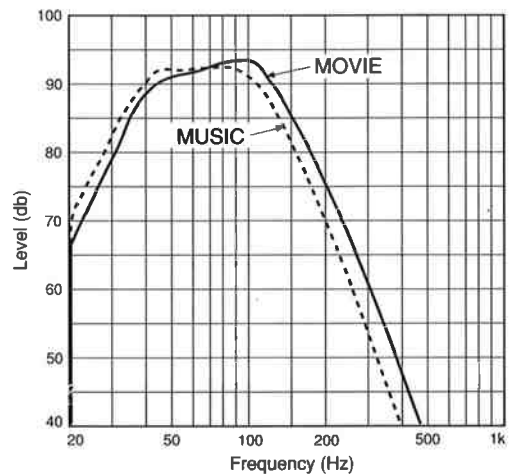
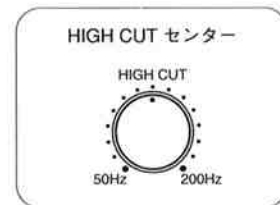
MUSIC/MOVIEモードについて

再生するソースは、大きく分けて音楽用と映画用の2つに大別されます。音楽用ソースにおいては、より低音域へ響く「帯域感」が重視され、映画用においては、より効果音のリアリティーを得るため、低音の「音圧感」が要求されます。本機では、両ソースに適した低音再生が得られるよう、MUSIC(音楽用)/MOVIE(映画用)モードを設けました。

リモコンのモードボタンを押す毎に、音楽用と映画用のどちらかを選択できます。

モード	モードインジケター	特長
MUSIC (音楽用)	緑	帯域感と音の響きを重視し、周波数特性のフラット化を図っています。
MOVIE (映画用)	赤	低音の音圧感を重視し、周波数特性に変化を付けています。また超低域の過大入力に配慮して、ローカットを少し早めています。

● 周波数特性図



他のヤマハスーパーウーファーと併用して使う場合

本機のMUSIC/MOVIEは、他のヤマハスーパーウーファーのPHASEと同じリモコン信号を使用しています。そのため、本機のMUSIC/MOVIEモード切り替え操作により、他のヤマハスーパーウーファーのPHASEが切り替わったり、他のヤマハスーパーウーファーのPHASE切り替え操作により、本機のMUSIC/MOVIEモードが切り替わることがあります。

故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。
 そのうえで正常に動作しないとき、あるいは下記以外で何か異常が認められる場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点に、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
電源が入らない	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグを差し込みなおす。
音が出ない	音量調節ツマミが最小(左一杯)になっている。	ツマミを右に回すか、リモコンの音量調節ボタンのUPを押し、音量を上げる。
	スピーカーコードの接続が不完全。	接続を確認する。 バナナプラグつきコードを使用しているときは、スピーカー端子が一杯までしめ込んであるか確認する。
音が小さい	スピーカーコードの接続が逆相になっている。	L、R、+、-の接続を確認する。
	フェーズ(位相)極性の選択が適切でない。	フェーズ切替スイッチ(PHASE)で極性を切り替える。
	低音域が少ないソースを再生している。	低音域の入っているソースを再生する。 ハイカット周波数を高くする。 (ツマミを右に回す)
	定在波の影響を受けている。	設置位置やリスニングポジションを変えてみる。
リモコンで操作できない	乾電池が消耗している。	乾電池を2本とも交換する。
	リモコン操作可能範囲からはずれている。	本体のリモコン受光部に対して7m以内、角度30度以内の範囲で操作する。
	受光部に直射日光や強い光(インバーター蛍光灯・ストロボライトなど)が当たっている。	光が当たらないよう、本体の向きや照明器具の向きを変える。

参考仕様

型式	アクティブ・サーボ・テクノロジー方式スーパーウーファー
スピーカーユニット	18cm ウーファー(JA1817)防磁型×1
アンプ出力	50W(6Ω, 0.1% THD, 100Hz)
カットオフ周波数	50Hz~200Hz可変(-24dB/oct)
再生周波数帯域	25Hz~250Hz(-10dB)
定格電源電圧	AC100V, 50/60Hz
定格消費電力	44W
外形寸法(W×H×D)	210×475×352mm
重量	11kg
付属品	リモコン×1 単3乾電池(SUM-3)×2 スピーカーコード(4m)×2

*仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用頂けるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

- 保証の期間は
お買い上げ日より1年間です。
- 保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
- 保証期間が過ぎているときは
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。
- 修理可能な範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますのでエージングの差による音色の違いが出る場合があります。
- 修理料金の仕組み
 - ◆技術料
故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
 - ◆部品代
修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
 - ◆出張料
製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- 補修用性能部品の最低保有期間は
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年（テープデッキは6年）です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 持ち込み修理のお願い
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。
- 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品名、製造番号などもあわせてお知らせください。
※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お預かり窓口)

北海道	〒064	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL (011) 513 - 5036
仙台	〒983	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL (022) 236 - 0249
新潟	〒950	新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL (025) 243 - 4321
東京	〒101	東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル TEL (03) 3255 - 2241
首都圏	〒211	川崎市中原区木月1184 TEL (044) 434 - 3100
浜松	〒435	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL (053) 465 - 1158
名古屋	〒454	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL (052) 652 - 2230
大阪	〒565	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL (06) 877 - 5262
広島	〒731-01	広島市安佐南区西原2-27-39 TEL (082) 874 - 3787
四国	〒760	高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内 TEL (0878) 22 - 3045
九州	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472 - 2134

■お客様ご相談窓口

(ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口)

東京	〒101	東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F TEL (03) 3255 - 5691 TEL (03) 3255 - 6767
名古屋	〒460	名古屋市中区錦一丁目18-28 TEL (052) 232 - 5740
大阪	〒556	大阪市浪速区難波中1-13-17 なんば辻本ニッセイビル TEL (06) 647 - 6411
本社	〒430	浜松市中沢町10-1 AV機器事業部 お客様ご相談センター TEL (053) 460 - 3409

ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部

品質保証室

TEL (053) 460 - 3451

TEL (053) 460 - 3405

住所および電話番号は変更になることがあります。